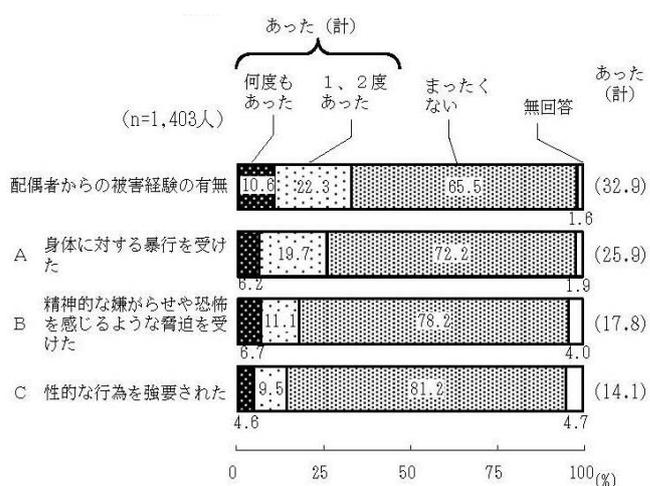


ウィズ通信

女性の3人に1人が夫から暴力を受けたことがある

うそでしょう？大げさすぎる、と思いますか？
 夫婦や、親密な男女関係における暴力のことをDV（ドメスティック・バイオレンス）といいます。殴る蹴るといった身体的暴力だけではなく、精神的、社会的、経済的、性的なものや子どもを巻き込む暴力も含まれます。このようにDVとは、いろいろな手段を用いて相手を支配することであり、相手の人格を尊重せず、自分の都合のいいように扱うということです。支配されている人は、ひどい扱いを受けても、自分が悪いからだと考えて耐え続け、相手からなかなか離れられません。
 もし暴力を振るわれている人がいたら、「あなたが悪いのではない」と伝えて、その人の話に耳を傾け、専門機関への相談を勧めてください。

配偶者からの被害経験(女性)



(内閣府「男女間における暴力に関する調査報告書 平成24年4月」より)

男女共同参画 TOPICS

平成24年8月から、DVで「裁判所からの保護命令」が出された場合、児童扶養手当が受け取れるようになりました。

児童扶養手当とは、父母の離婚などで、父又は母と生計を同じくしていない子どものいる家庭（ひとり親家庭等）を経済的に支援するために支給される手当です。

内閣府の調査では、暴力を受けて別れたいと思っても別れなかった理由として「子どものことを考えたから」「経済的な不安があったから」が上位を占めています。

従来の規定では、子どもを連れて家を出ても、離婚が成立するか、1年以上別居するなどしていないと支給の対象になりませんでした。暴力に悩みながら、経済的な問題のために加害者から離れることを躊躇している方には、支援制度の一つとして伝えたい情報です。

※児童扶養手当のくわしい支給要件については、市役所の子育て支援課の窓口でおたずねください。

摂津市立男女共同参画センター ウィズせつつは・・・

性別に関わらず、家庭、学校、職場、地域などで、一人ひとりが個人として尊重され、対等な関係を築き、共に責任を担う男女共同参画社会づくりを推進するための目的施設です。

性別による固定的な意識を見直し、女性の自立と社会参画を推進します。また、市民の活動やネットワークづくりを応援します。



摂津市立男女共同参画センター情報誌
 「ウィズ通信」は、年に3回、5月・9月・1月に発行します。

暴力はなくすことができる！

～DV・性暴力被害者の視点から～

メンタルカウンセラー・おやこひろば主宰 柳谷 和美

虐待や暴力は基本的人権を侵害し、人間としての尊厳を傷つけるものです。しかし、連日、全国各地で虐待や暴力による痛ましい事件が後を絶ちません。そこで摂津市では、平成24年6月に虐待等防止ネットワーク会議を設立し、関係行政機関の連携を強化して、複雑・多様化する虐待や暴力の早期発見と被害者の保護・支援により一層取り組んでいくこととしました。平成24年11月11日の柳谷和美さんの基調講演の内容を抜粋して紹介します。

なぜ被害を語るのが難しいのか

私自身、性暴力、DV被害の経験者です。そんな私が今ここに立って話すのも意味があると思います。いつまでも被害者として、ずっと落ち込んで恨み憎みを抱えて過ごすのではなく、こうやって「めっちゃ健康！」って言っていると、ほんとに健康になっていくんです。言葉って大事です。



私は5歳と7歳の時、性暴力の被害に遭いました。7歳の時の加害者は16歳の従兄でした。従兄は2年後、バイク事故で亡くなりました。だから私は今被害の体験を話すことができるとも言えます。レイプ被害というと、ミニスカートをはいて夜遅く出歩いていて見知らぬ男から襲われるといったイメージがありますが、実際には肉親や知人からの被害が非常に多いのです。だから、訴えられない。

また、私の父は、気分次第で叩いたり怒鳴ったりする人でした。母親からもなんのフォローもありませんでした。親に、性暴力被害に遭ったことを打ち明けるなんて、できない環境でした。それどころかいつも、「お姉ちゃんなんだからしっかりしろ。泣くな」と言われ、父からは「言うこと聞かんから叩くしかない」と言われて叩かれていたので、私の中に体罰、暴力というのは当然のものとしてインプットされました。その後18歳から21歳まで付き合い合った男性からも暴力をふるわれました。彼は「愛してる」と言いながら殴るんです。私は「痛い」とも思わず、「愛されてるから殴られるんだ、だってお父さんがそうだったから」と思っていた。…おかしいでしょ？ でも、暴力は、そうやって被害者を洗脳していくものなんです。

孤独な子育てと虐待

私の長男は今、21歳です。21年前の子育ての時のことを話します。最初の夫は転勤族で私は孤独でした。その頃はネットもメールもないし、友達を作ろうと公園に行っても誰もいない。行く所がないので家に引きこもっていると子どもが泣く。泣きやませようと抱っこすると嫌がる。置くとまた泣く。どうしたらいいか分からなくなって叩き、そのまま部屋に閉じ込める。しばらくして声が聞こえなくなってきているのに気がついて部屋を見ると、畳の上うつ伏せになって泣き寝入りしている。それを見た時には、「ごめんね、優しいお母さんになれなくてごめんね。なんでこんなことしてしまうんやろう、今度目を覚ましたら優しくするからね」と思うんだけど、また同じことを繰り返してしまふ。自分が嫌で嫌で、いっそ、この子を殺して自分も死ぬと首に手をかけたこともあった。でも、息子の首がほんとに柔らかかった。「この首、絞めきらん！」と…。

そんなふう苦しむうちに、子どもを保育園に預けて働くことにしました。離れるというのはすごく大事です。泣きやまない子どもを強く揺さぶりすぎて脳に障害が残る「揺さぶられっ子症候群」というのがあります。そんな時は、無理に泣きやませなくていい、離れてください。そうして命を守ることができます。

怒りの仮面の裏側

自分の体験から、「怒り」の裏には自分の傷つき体験による「さびしいよ、不安だよ、怖いよ」といった気持ちが隠れていることに気づきました。その身体表現は「泣く」です。だけど、どうしてみんな、こんなに泣いてはいけないと思っているんでしょうか？

その一番身近な理由は、67年前に終わった戦争です。えっと思われるかもしれませんが、特に男性は、「怖いよ、行きたくないよ」と泣いていたら戦争ができないから、感情を押さえ込まなくちゃいけない。もちろん、家で待っている女性も子どもも、「泣くな！」と言われた。そうやって戦争の時代を生きてきた人たちが、私の父の世代を育てました。ちなみに私の祖父は、大陸でいっぱい人を殺したこ

とを武勇伝として語っていました。祖父の心の底にはほんとうは、「家族と離れて悲しいよ、怖いよ」と泣きたい気持ちがあったんじゃないか。でも、それを言えなかった祖父は、父を毎日のように虐待していました。そして父は「自分は虐待を受けたから虐待したくないんや」と言いながら私を虐待していました。「しつけのためにやっている」という大義名分を振りかざすので、子どもの私は、自分が悪いから叩かれると思っていました。父からされたことが虐待だと気付いたのは、カウンセリングを学び始めてからです。

しつけに体罰は必要ないです。それは大人の怒りをぶつけているだけです。体罰を使わなくても子どもは育てられます。

押さえ込んだ感情に気づく

虐待のスイッチは、「泣く」です。子どもが泣きだすと、自分自身が子どもの頃に「泣くな!」と言われて泣けなかったという思いがうずくんです。「私に気づいて!ほんとは辛いよ!」という泣きたい気持ちを押さえ込むと怒りになります。だから、怒りっぽい人と言うのは、そういう辛い気持ちをたくさん押さえ込んでいる人なんです。では、どうしたら暴力の連鎖をなくせるか。子どものころに辛かった気持ちをちゃんと引き上げて、辛かったねと認めてあげることです。「いやいや、全然辛くなかったし、寂しくなかった」と言う人ほど辛さ寂しさを抱えています。私も10年ほど前、学び始めるまで、「全然寂しくない」と言っていました。とっつても寂しい人でした。親から抱きしめてもらったことがなかった。

加害者を生まないために

従兄はなぜ性暴力の加害者になってしまったのだろうと考えました。彼が育った環境、両親の関係…。女性に対して怒鳴ったり暴行したりして支配する。彼は両親の夫婦関係を見て、男女のコミュニケーションとはそういうものだと思っただけです。

さらに考えた時に、父の辛さ、悔しさ、悲しさに気づきました。父は、私を殴って気分がよくなったわけではなく、殴る以外のコミュニケーションの方法を知らなかったんだと。知らないって怖いと思いました。だから、伝えていこうと思いました。性暴力やDVの被害に遭って味わってきた苦しみ憎しみ。そういう宿命を使命に変えようと。

そして、父にも初めて言いました。「親父には、死ぬ前に一回、土下座して謝ってもらおうと思ってた。殴ってごめんねって言ってもらおうと思ってた。…だけど、親父も辛かったっちゃね。じいちゃんからずっと叩かれてさ。私をいい子に育ててじいちゃんに認めてもらいたかったっちゃね。私は一生懸命勉強して、中学で息切れして暴走したけど。でも、親父が辛かったこと、今はわかるよ、辛かったね」と言ったら、父は、ぼろぼろ涙を流していました。「すまんかったな…」って。「だけん、もう謝らんでいいって」と私が言っても「ごめんな、ごめんな…」と言いながら、ぼろぼろ泣いて。それを見て

いた今の夫が「ええ場面に遭遇しとるわ、俺」と言って一緒に泣いていました。

泣きたい時は泣こう

さて、最後に、お隣同士で、ちょっと顔を合わせて、近づいて背中にこんな感じで手をあててください。

隣にいる人は、お互い、生まれて今まで生きてくる間にいろんなこと、辛いことや悲しいこともありました。でも、一生懸命生きてきて、この場に居合わせています。今日の明日は確実にない。同じ明日が来るという保証はないんです。今この場ににいるというのは奇跡なんです。そんな奇跡のあなたに「よく頑張ってきたね」という思いで手を添えていただいて、最後に私のメッセージを送ります。

いつもがんばってること、ちゃんとわかってるよ。辛いときも苦しいときも誰かに心配させないように一人で頑張ってきたもんね。辛いときは辛いて言っていんだよ。悲しいときはたくさん泣いていいんだよ。自分をたくさんヨシヨシしてあげようね。自分をたくさんヨシヨシできたら、傍にいる人たちもヨシヨシしてあげられるからね。

子どものために、夫のために、妻のために、母のために、父のために、そして世間の体裁のために、いつも自分の気持ちを後回しだったね。そのままのあなたでいいよ。誰もあなたの代わりにはなれないからね。聞いてほしかっただけ。寄り添ってほしかっただけ。ただ、傍にいてくれるだけでよかったんだ。苦労は力になる。悩みは知恵になる。悲しみは優しさになる。

あなたが踏み出す一歩には無限の価値の可能性がある。秋の冷たい空気も、子どもたちの柔らかいほっぺたも、かわいい小さな手も、ちょっと焦げたハンバーグも、生きてるから感じるができる。生きてるから辛いこともある。失敗したっていいじゃない。だいじょうぶ、あなたには自分でちゃんと生き抜く力がある。出会ってくれてありがとう。産んでくれてありがとう。生まれてきてくれてありがとう。



柳谷さんのメッセージに耳を傾けながら、参加者全員で「ヨシヨシ」

はい、では目を開けて、ありがとう!という気持ちをこめて、お隣の人と握手してください。

いっぱい「ヨシヨシ」して、自分の辛さを受け止めていっぱい泣いてください。男の人ほどいっぱい泣いてください。泣ける社会を作って、暴力のない世の中にしていきたいと思います。

日本女性会議2012仙台 参加報告

2012年10月26・27日、「決める、うごく、東北から」をテーマに日本女性会議が開催されました。震災から1年半たった今だからこそ、被災地東北から「女性たちは社会を変える力も責任もある」ことを発信！女性たちが意思決定の過程に加わり、その責任とともに行動していこう、「自ら決めて、動いて、社会を変えていこう」という強い思いが込められた2日間でした。



2013年は徳島県で開催予定。
仙台のゆるキャラむすび丸から
すだちくんへバトンタッチ。

特別プログラム

女性たちが語る 3.11～これまでと今と

三陸沖約80km、深さ24kmの海底での地殻変動の巨大エネルギーは、地震から津波を伴い、それでもまだ足りない放射能汚染という未曾有のダメージ、その中で女性たちは必死で生きるために戦った。3.11の夜中、電気もガスも水までも止まってしまった恐怖の中で、避難者の妊婦の出産が始まった。同じ避難者の中に助産婦がいた。周りにいた人たちがローソクの灯りでお産を手伝い無事出産をした話等々想像に絶する様子が赤裸々に語られた。被災者の半数は女性であるにもかかわらず、各地で開設された避難所の管理者は全て男性である。それは何故か。避難計画や防災対策を策定する場が男性中心だから。

福島の子供たちには風評被害を受けて子どもを産まない選択をしている。これらは人権問題ではないのか？いずれにしても女性たちの力は仕組みの中で評価されていない現実がある。女性も含むみんなの共感で震災の重すぎる経験を今と将来に活かすの

は私たち…。

(NPO法人摂津市人材
サポート・ビューロー
北川照子)



第2分科会 「困難すごろく」でみる女子の生きづらさ

プレカリアート（不安定な雇用・労働条件における非正規雇用者や失業者の総体）問題に取り組む、反貧困ネットワーク代表の雨宮処凛さんの語りには、自身や実弟の体験談があり印象的でした。高度経済成長期にはなかった就職難民となる若者の生きづらさがよくわかりました。被災女性によるピアグループが企画した「困難すごろく」は面白いです。同世代の女子でゲームのように遊んでみましょう。女子だから・・・の生きづらさはなぜかを考えたり、問題解決のヒントが見つかり、自信を持って新たな一歩を踏み出す機会になるかもしれません。私がジェンダーに出会い12年が過ぎました。ジェンダー平等を考えながら関わる中で自身の幸福追求のためにいろんな活動を展開してきました。日本女性会議への参加もその一つで、開催地の歴史や文化を楽しみ、主催者や参加者の情熱にいつも感動しています。持続可能な活動をするには、立場に囚われることなく、ありのままの自分を語り合うための集い場があるといいと思います。得意の朗読でわたしの物語を伝えていきたいです。

(朗読グループ・グッドムーン 田中静子)

編集・発行 摂津市立男女共同参画センター ウィズせつつ

●開館時間：月・木・金・土・日曜日 午前9時30分～午後5時
火曜日のみ 午前9時30分～午後9時

●休館日：水曜日・祝日・年末年始

〒566-0021 摂津市南千里丘5-35 摂津市立コミュニティプラザ1階

TEL：06-4860-7112 FAX：06-4860-7113

ホームページ：http://with-settsu.jp e-mail：danijo@with-settsu.jp



2013年1月発行